

みんなの話・輪・和

令和2年12月 第6号 文責：広安西の子部長（本田 有美子）

地域学習の紹介

4年生は総合的な学習の時間に益城町の湧き水について学習しています。11月12日（木）、地域の方を講師にお招きして、自分たちの住む地域の湧き水についてお話を伺ったり、実際に調査に出かけたりしました。今回は、緒方さんと竹本さんからのお話と子どもたちの感想をご紹介します。

湧き水の活用と歴史

講師：緒方 保則 さん

戦前から現在に至るまで、湧き水は、いつの時代も主に生活用水・農業・工業で活用されてきた。地域の人の生活を支えている大切な資源である。

昔は自然に湧くところが多かったが、今は水道の普及もあり、ボーリングで汲み上げているところが増えている。

また、熊本地震では、今まで出ていたところがかれてしまったり、逆に出ていなかったところから湧いたり、益城町の湧き水にも影響が出ている。

阿蘇の恩恵である湧き水を大切に使い、なくならないようにしていく取組をしてほしい。

湧き水の仕組み

講師：竹本 紀彦 さん

阿蘇山の大噴火で堆積した地層を雨水が通って、湧き水となって湧き出ている。だから、熊本の湧き水は阿蘇山の噴火が始まりである。

堆積した深い地層を通して湧き出てくる水は、今から20年前に降った雨水が今の湧き水として湧き出ている。

湧き水の温度は15～16度くらいで、季節に合った冷たさや温かさがある。

湧き水は、飲料水としてだけでなく、お酒やもやし、わさび作りなどにも使われている。

子どもたちの学習の様子

- 湧き水で、野菜を洗ったり、水遊びをして遊んだりしていたことを知りました。
- 4年前の地震で、湧き水が出なくなったことは悲しかったけど、戻ってきている場所（潮井水源）もあることを知ってよかったなと思いました。
- 湧き水の仕組みについても詳しく教えてもらえてよく分かりました。
- 秋津川に、昔（戦時中）蛍がたくさんいたと知り、驚きました。
- 益城町（熊本県）の湧き水についてもっとも勉強したいなと思いました。
- 湧き水が減ってきていることを知り驚きました。これからも湧き水がなくならないように水を大切にしようと思います。

☆環境委員会でも地域の方と一緒に、湧き水について学習したり、湧き水の周りの生き物について考えたりしています。